

水資源の保全



2022年度の進捗

- ミツビシ・モーターズ(タイランド)・カンパニー・リミテッド(MMTh)における排水リサイクルプラントでのオペレーションの確立/改善
- 水島製作所での塗装工場、板金工場などの生産工程からの排出を処理する排水処理施設および、それに付帯する汚泥脱水装置の完成

〈関連ページ〉

P15 三菱自動車のマテリアリティ

P20 マテリアリティ

P33 環境マネジメント

P118 製品・事業活動関連環境データ

(WEB) 大気・水質・PRTR対象物質データ(2022年度実績)
https://www.mitsubishi-motors.com/jp/sustainability/esg/factory_archive2023.html

基本的な考え方

人口の増加や、気候変動による自然環境の変化により、水需給がひっ迫する地域が拡大しており、水資源の保全に対する社会の関心が年々高まってきています。

三菱自動車は、自動車の生産活動において、工業用水、上水(市水)、地下水などを使用しており、下水道や河川などへ排出しています。水リスクの高い地域では、事業活動への影響や取水および排水が周囲の環境に与える影響に配慮することが不可欠です。

各事業所では、排水水質などの各種法的要求事項を遵守するとともに、水資源管理に関する各国・各地域の情勢などを踏まえて、取水量の低減・水リサイクル技術の導入などに取り組んでいます。

また、当社の取引先の操業においても水は不可欠であり、バリューチェーン全体での水リスク管理の重要性を認識しています。

取水量の低減

生産工程で使用した洗浄水の予備洗浄への再利用、冷却水や温調用水の循環利用などにより、取水量の低減に努めています。

岡崎製作所およびミツビシ・モーターズ・クラマ・ユダ・インドネシア(MMKI)では、雨水貯留タンクを設置し、雨水の再利用も行っています。

また、岡崎製作所では地下水をろ過する設備を設置しており、災害発生などによる断水時には工場近隣の方々にも飲料水を提供できるよう備えています。

▶ DATA(P120)：取水量

各工場の取水源と排水先

工場	取水源(工業用水、上水、地下水)	排水先
岡崎製作所(愛知県岡崎市)	矢作川	神田支川→鹿乗川
京都製作所 京都工場(京都府京都市)	琵琶湖	下水道
京都製作所 滋賀工場(滋賀県湖南市)	琵琶湖	下水道
水島製作所(岡山県倉敷市)	高梁川	八間川→水島港
ミツビシ・モーターズ(タイランド)・カンパニー・リミテッド(MMTh)	ノンプラライ貯水池など	下水道
ミツビシ・モーターズ・クラマ・ユダ・インドネシア(MMKI)	ジャティルフル湖	下水道



雨水貯留タンク(岡崎製作所)



地下水膜ろ過設備(岡崎製作所)



排水の再利用

三菱自動車グループでは、各事業所の所在地の水資源管理に関する情勢などを踏まえて、排水リサイクル技術を導入しており、現在、ミツビシ・モーターズ・クラマ・ユダ・インドネシア(MMKI)とミツビシ・モーターズ(タイランド)・カンパニー・リミテッド(MMTh)で、排水リサイクルプラントが稼働しています。

MMKIでは、2017年の工場設立時より水リサイクルプラントを導入しており、2022年度における排水のリサイクル率は67%でした。

また、MMThでは、新塗装工場の稼働開始に合わせ、2022年1月からMMTh初の排水リサイクルプラントが稼働を開始しました。2022年度はオペレーションを確立・改善を図ることにより、2023年1-3月の排水リサイクル率は83%まで向上しました。

▶ DATA (P120) : 排水量



排水リサイクルプラント (MMTh)

水質汚濁の防止

当社は製作所周辺の水域の水質汚濁防止のため、法的要求事項にもとづいた排水水質の測定・管理に加え、地下水の水質や土壌汚染の調査・確認を定期的に行い、有害物質が敷地外へ拡散していないことを確認しています。また、雨天時などに水質異常を速やかに検知するため、工場から公共水域への放水口手前に、油膜検知器(※)を設置し常時監視しています。事故などが発生した場合は、直ちに拡散防止策を講じるとともに、行政へ報告し、地域へ情報を公開します。

※ 油膜検知器：油の反射率が水の反射率より大きい性質を利用し、反射率の変化をキャッチして油膜の浮遊を検知するもの



水質観測用井戸 (岡崎製作所)



油膜検知器 (岡崎製作所)

TOPICS

産業系排水の廃水処理施設と汚泥脱水装置の更新 (水島製作所)

水島製作所では、老朽化した廃水処理関連施設の更新を段階的に進めています。2021年度の上水道・生活系廃水処理施設の更新に続き、2022年度には塗装工場、板金工場などの生産工程からの廃水を処理する廃水処理施設とそれに付帯する汚泥脱水装置を更新し、2023年3月から運転を開始しました。

廃水処理施設には高速凝集沈殿装置を導入し、処理時間の短縮、省スペース化、処理水質の安定化を実現しています。また、処理水の移送に自然勾配を活用しポンプ数を削減することで省エネ化し、年間50tのCO₂排出量を削減できる見込みです。

汚泥脱水装置では、脱水性能の向上のためフィルタプレス脱水機を更新し、産業廃棄物として処理する汚泥を約15%、年間70t低減できる見込みです。



産業系廃水処理施設および旧処理場跡地に新設した緑地 (水島製作所)